

# 「教育課程論」通信

vol.04

## 2コマの流れと記録

算数と社会の（受験）勉強経験を思い出していると、苦手だった場合算数は「捨てる」という発想に至りやすいのに対して、社会はそのような発想にはなりにくいのはどうしてだろうかという疑問がでてきました。そこで、算数と社会の教育課程の編成はそれぞれどうなっているのかをみていきました。学生からは、数学は単元が繋がっているのに対して、社会は世界の単元がわからなくても地域がわかる場合もあるという意見などができました。概念的には、階段モデルと螺旋モデルがあることを頼りに整理をしました。では実態はどうか迫るべく、算数科の教科書2社を用いて、小学校5年生「平均」の単元に関して分析をしていきました。同じ単元でも単元内のシーケンスが若干異なり、各教科書で色がでることを分析を通して実感することができました。そこで終わらずに、自分たちの学校や子どもたちの実情にあわせたものを考えられるかどうか、「カリキュラムを役する教師」であるために大切な要素になると考え、前回扱ったA小学校からD小学校までのケースを用いて、算数の教科書と学校のマッチング活動を行ってみました。教科書営業マンと教科書採択者に分かれてロールプレイをするなかで、マッチングの考え方や採択意思決定の理由を考えるを通して、カリキュラムを役する教師としての選択眼を磨いていきました。

カリキュラムマネジメントの重要性が指摘される中で、学校や教師はどのようにカリキュラムマネジメントを行えるのか。制度的なものだけではなく、地域や子どもの実態等を踏まえつつ、望ましい方向を常に見据えた「カリキュラムをつくる側」に立脚した「カリキュラムを役する教師」であることの価値を確認できた2コマになりました。そのために必要となる考え方や選択眼を、教科書単元の分析などを通して養っていきまいたが、引き続きカリキュラムマネジメントの眼を洗練させていきたいと思います。



## タイプ別典型例の紹介（マッチング～算数科の場合～）

～Padletに公開された教科書と学校のマッチングの意見をいくつかもってきました^^～

### A小学校：ニュータウンの小学校

A小学校として採択したのはア社であった。転校生が多いため全国的にシェアが多いア社の方が児童が適応しやすいのではないかと思った。

タイプAの小学校として採択した出版社はイ出版社である。その理由としては、A小学校に通っている児童は保護者が教育熱心であるということ踏まえ、学習塾に通っている児童が多い。そのため、ある程度学習における土台が固まっている子がほとんどである。ア

### B小学校：古い街の小学校

タイプBの小学校を想定したところ、啓林館が採用された。理由としては、地域密着の学びを重視するB小学校には、啓林館の応用問題である防災マップの活用がより適切であると考えたからである。また、教育についての意識が高い地域であり、教科書についているQRコードを読み込むことで予習復習を手軽にすることが出来る側面も理由としてあげられる。

### C小学校：山間部の小学校

タイプCの小学校として採択したのはイ社であった。その理由は山間部なので教科書に載っているような日常と繋がった導入が行いやすい。また学校は複式学級なので少し難しいと思うが理解している6年生との教え合いができると考える。

### D小学校：市街地と公共団地

タイプDの小学校として採択したのはア社であった。理由としては、家庭の学習環境に差があり、十分な家庭学習が難しい環境の子どもや日本語の理解が不十分な子どもも多いため、基礎基本（知識技能）を押さえることが重点に置かれると考えたためである。

### マッチングの考え方

マッチングの考え方には、教師の意向だけでなく、児童の構成要素や特性、保護者や地域の方の教育に対する考え方や要望が関係してくると思う。例えば、外国の児童が多かったり、複式学級などになると、複雑な事象と一緒に考える教育出版より、段階的に順をおって学べる啓林館のほうがよりマッチングしているのではないかとかんがえる。



## 編集後記

マッチングの活動やPadletでのコメントをみて、どの採択者も何かしらの事情(地域、子ども、家庭など)を踏まえて、何かしらの意図をもって、1つの教科書を採択したり、意思決定をしたりしているのが印象的でした。ですが、意思決定の結果は当然異なる場合もあり、その意思決定は何に基がしているのかという視点でもPadletをみてみるとおもしろい^^ 意思決定を支えている個人的な教科、子ども、教育についての信念が教師それぞれ違うからだろうけど、今日もお疲れ様でした。また来週!

〔制作・編集 馬越夕椰(教育課程論TA)〕

## 南浦先生の今日のひとこと

今日の授業で出てきた「螺旋型」と「階段型」ですが、これはあくまで「物事を見るレンズ」なのです。なので、「この教科は螺旋!確定!」でもないし「ここからここまでが階段!」でもなくて、大事なのはそうやってレンズを磨きながら、そのレンズがあれば見えてくる世界を大切にすることなのです。それを「概念」っていうんですよ!

